

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

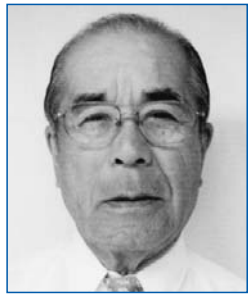
11月21日に開催された安来節保存会代議員会において、平成29年度の上位昇格者と表彰者が報告されました。

今回、唄の部では出雲正之助さんが8年ぶりに名人となられ、准名人に3名、大師範に7名の方が昇格されました。おめでとうございます。

来年の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

唄 野村建男子(山) 唄 進藤聖子(西) 唄 高木修妙(西) 絃 富田修徳(頭) 踊 深田英治(多) 唄 渡部博之(大) 唄 福田瑞枝(本部道場)

— 大師範 (七名) —



唐木 好美
鼓の部
(湖陵支部)

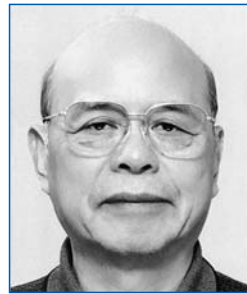


丸瀬千登世
絃の部
(本部道場)



増田登志子
唄の部
(本部道場)

— 准名人 (三名) —



出雲正之助
唄の部
(益田支部)

— 名人 (一名) —

上位昇格者

中村英生(東) 中浜純子(神) 新元みつき(西) 田村きよ子(西) 初村恵美子(山) 井山恭明(岡) 阿部愛子(岡) 板井九利(広島南) 藤川勝美(広島島) 藤井珠子(広島島) 島本征治(江田島能美) 日野いくえ(米子) 入江輝文(米子) 森本公枝(鳥取) 高力栄悦(東松江) 永瀬保樹(松江) 井谷稔(松江) 持田樹雄(平野) 横手川良子(津和野) 森川岩雄(大津) 梶山郁猛(宍道) 小畑郁世(宍道) 持田桂吉(湖神門) 森山功利(加茂) 福島倭弘(加茂) 秦宅義子(大田) 三宅小三郎(石見) 本清宣子(飯南) 内藤勲(本部道場) 長島道子(本部道場) 藪内佐都美(本部道場) 池田(三十三名)

会員表彰者

願い申し上げます。

私が安来節を始めたのは、昭和四十八年頃と記憶しています。昔から安来節が大好きだったので、指導して下さる先生を探してはありました。当時はサラリーマンで取引先の社長に誘われたのが、きっかけでした。毎週広島先生の所に通い、夢中になり二時間の練習時間が五分間のように思えました。嫌な事は五分でも長く感じるのにとしみじみ思いました。その後、島根の立派で素晴らしい先生方に巡り会え、温かくご指導頂いた事に心より感謝しております。事務的な事が何も出来ない私をすべて助けてくれる支部長をはじめ役員、会員の皆さんの支えがあつて楽しく続けて来れました。八十歳になつて今つくづく思うのは、安来節のおかげで沢山の方々との出会いがあり、私の大切な宝です。

私と安来節



資格審査員
石川弘一
(江田島能美支部)

私と安来節

安来節保存会創立100周年記念
安来市無形民俗文化財指定記念



安来節・基礎テキスト

ビッグ付録
「安来節あんこ特集」

絶賛発売中!

唄われて100年の魅力!
安来節保存会200年へのテーマ

価格 1,000円

出雲街道民謡交流会編集発行
090-2809-1233(渡部孝夫)

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

ブランド商品の傑作 廣田亀治の開発した「亀治米」

並 河 健 蔵

私は明治時代の安来地方の豊かな経済事情を調べようと、大正四年（一九一五）刊行の「安来港誌」を読んでみると、「安来米改良の殊勲者」という記事が目につきました。その記事は主要次のように述べている。

安来米の改善には二つの記憶すべき殊勲者がいる。その一つは安来町地主組合で、一定の規約の下で収納米の奨励や改良農作法の普及、米質種類の選定、精米方法や製俵米の改良を励行したため、以来安来地方の産米は生まれ替わった様に改善された。

その二は水稻の良種「亀治」を選出したことである。能義郡荒島村（現・安来市荒島町）の篤農家・広田亀治で、この新良種普及のため、地方の産米の品質が、いかに改善されたか、またいかにその産額が増えたか等、現に阪神市場で好評の出雲米の七、八割までが、この亀治米である。

そこで広田亀治とは、どんな人物なのか調べることにした。手元にある資料としては、「明治百年島根の百傑」をはじめ「島根県大百科事典」や「島

根県歴史人物事典」「子どものための人物島根の歴史」に詳しく述べられている。私は日本農業の歴史の中で、どのように位置づけられているのか、という視点で学術的な面から調べてみると、元島根大学学長で農学博士の山田一郎氏の解説（「島根県大百科事典」）の記事を紹介したい。

亀治（かめじ）とは明治八年（一八七五）広田亀治によって作り出された水稻品種であり、収量性の良いことで、明治時代末から大正時代にかけて全国的に普及し、昭和二十年代まで栽培されていた。広田亀治は御倉（注・松江藩が管理する米蔵）の番人で、零細な小作人の次男に生まれた。当時、水田耕作の緑肥としてレンゲ（みやこばな）が作られていたが、時に稲を徒長させ、またイモチ病や根ぐされの発生の原因ともなっていた。このような地域農業の特性を背景として、広田亀治はイモチ病に強く、倒伏しないで更に多収な品種を選びだそうと日夜努力して、ついにその品種の米を見出すことに成功したのである。

耐肥性、耐倒伏性、耐病性に優れた「亀治」品種は、明治末期から主として油かすによる水稻の多肥、多収志向の日本稲作の展開の中で、その真価を西日本地域で発揮することになる。昭和二十

「日本晴」などの品種が作り出されて、全く栽培されなくなった。

このように近代日本の稲作農業を牽引した「亀治」にあらためて敬服するのであるが、明治時代の安来地方での「亀治」への応援策は、次のようなことがあげられる。

安来の多くの精米業者は、「亀治米」を含む安来米の改善策にのり出した。まず①精米の結果、極めて生白であることの好評を阪神市場で博したり、②乾燥方法を改善したり、③精米一俵につき二合ないし七合を加えたのである。こうして内外の高い評価を受けた安来米を称える安来節の歌詞がある。

都百万賑わうかまど
炊ぐお米のその中で
値段安来の精米は
色が白くて味ようて
高い評判十神山
山ほど注文引き受けて
汽車や汽船に積み込んで
阪神登り

さて、明治の初期、今日のような科学的な品種改良の研究機関もない環境で、小作人として松江藩の御倉の管理人として勤めながら、一方では自らが耕作する水田を研究の場所として、ひたむきに取り組んだ結果、「亀治米」を確立させたことは、誠に驚愕に値するのである。昨今、全国各地でブランド品の開発によって町の活性化を計ろうとする動きがよく見受けられるが、この「亀治米」こそ、ブランド商品としての傑作の最たるものであり、ブランド商品のルーツでもあろう。

JR荒島駅（安来市荒島町）の西にある小公園に立つ銅像・広田亀治は、このような高い社会的評価を背にして、広く天下を見渡しながら、日本農業の将来を案じているようだ。

私と安来節



安来節を
始めたきっかけ



指導部員
出雲啓之助
(大東支部)

二人は一級になり、私は二級でした。

昭和四十五年、名古屋から会社を辞めて帰り、地元（大東町、北村）で、その当時青年団の集まりがあり、そこで銭太鼓を始めたのが安来節に出合ったきっかけでした。その折、二代目出雲愛之助先生と、当時は出雲友之助（現、三代目出雲愛之助師匠）のお二人が玉造の帰りに海潮青年会館に来て頂いて習い始めました。その内、「唄も覚えろ」と言われ、習いました。当時は須賀地区（日本一の宮須賀神社がある所）で唄と三味線の稽古をやっておられ、そこに行つて三味線に合わせて唄いました。その頃はたくさんの方々が海潮地区におられて、佐々木偉市先生と同じ道場でした。習い始めて半年後に「審査を受けてみたら」と言われ、昭和四十六年に唄の審査を受けて、保存会に入会する事になりました。その時、三人審査を受けましたが、二人は一級になり、私は二級でした。その後も毎年審査を受けていましたが、准師範になった頃、家庭の都合で二人が退会されたので、私も辞めようと思いましたが、しかし、母は口癖のように「芸は身を助ける」とよく言っていましたので、辞めずに昭和四十八年には鼓の審査を受け、踊りの審査を受けたのは、昭和五十六年でした。しかし、母から「踊りはやめた方が良い」と言われ、理由が分からなかったため、なぜかと聞く。「下品で汚い踊りだ」と言っていました。昔の踊りは色々ありましたが、今の踊りは綺麗で上品な踊りになっていきます。その事で踊りは昭和六十三年までやっていませんでしたが、大東で踊りのメンバーもでき、平成元年に大東踊りの会として復活し、たくさんの方々が参加してました。予選会ではほとんどの階級で大会に出場した事もありました。その頃から三代目出雲愛之助師匠に習い始め、踊りの会の師範では佐々木偉市先生を始め六名が優勝旗をもらい、今になって考えるともの凄いな事をやっただけだと思います。稽古の時はきつかったです、出るからには優勝しかならないという事でみんな頑張りました。大会後の反省会では、大変お

JR荒島駅の西にある小公園に立つ広田亀治の銅像



いしいお酒を飲み、今振り返るとあの頃がとも懐かしく思えます。ちよつとしたきっかけからやり始めた安来節、今では私にとってかけがえのない宝物になりました。

保存会の指導部に入り、たくさんの皆様方と親しくさせて頂いた

私と安来節



日野いくえ (米子支部)

本場安来に生まれ、六人姉妹の五番目です。子供の頃から全員唄が好きで、ラジオの下で浪曲や演歌を聞いたものです。夜になれば近所の人が集まり、父親が三味線を弾き、安来節や安来拳で楽しませてくれたのです。この頃から安来節が唄いたという願望はありました。父親の影響でしようか、姉三人も保存会に籍を置き、支部は違いますが、今現在それぞれに頑張っています。子供達も独立し、念願の安来節を唄う順序がようやくやって来ました。吉野和夫先輩の紹介で平成十一年に故足立稔先生の門下生となり、米子支部に入会しました。嬉しさと楽しみで心弾む毎日で練習日が待ち遠しい程でした。我流で唄っていま

大変感謝しております。これからも足腰が動く限り、頑張りたいと思っております。皆様方と大好きな安来節のために頑張りを、後世に伝え、残していきたいと思います。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

たので、正調のリズム、テンポに直すのに必死でした。手厚い指導の陰で翌年、二級の部で優勝し、夢のようでした。毎年、予選会は通過し、再び二段の部で優勝し、とても感動しました。順調に七年で師範となり、すごく嬉しく思う反面、師範という重圧に自信喪失の時期もありました。またその頃、突然師匠を失い途方に暮れましたが、先生の節で唄い続ける事が恩返しだと頑張っております。安来節を通じて多くの方との交流もあり、人生の励みや支えになっております。魅力ある素晴らしい諸先生方また先輩方にも恵まれ、本当に幸せ者だと深く感謝しています。まだまだ未熟な私ですが、安来節を愛し、さらなる努力をしていく覚悟です。今後とも保存会の発展を心よりお祈り申し上げます。

何が何でも安来節



丸山 豪 (山口支部)

私が安来節と出会ったのは、十数年前です。定年後の楽しみを見つけようと陶芸、民謡、尺八等、色々始めた頃です。

出張途中の電車の中、新聞の広告欄にどじょうすくい踊りのビデオの通信販売があり、これは面白そうだと購入し、家族にはわからないよう

どじょうすくい踊りに魅せられて



松本良治 (東北支部)

好きな仕事を無我夢中で過ごしてきたある日、ふと喜寿を迎える年齢に気付く、子供の頃のしがらみの無い自由な生活を懐かしく思い出し、長年お世話になった会社を退職しましたが、さあこれからどうしよう、そこで考え付いたのが遠い昔、島根県に旅行した時に見たリアルで品が

に練習しましたが、全然面白く無く、誰か仲間が欲しいと思っていると願いは叶うもので、また新聞の募集欄に「どじょうすくいを踊りませんか」との記事、すぐに電話して入会し、現在に至っております。

最初は指導者がいるわけではなく、皆でワイワイ、ガヤガヤ状態でした。それを抜け出すために山口支部(私達の教室は福岡県古賀市です)に入会させて頂いて、審査会を受けられるようになり、徐々に面白くなつて来ました。准師範までとんとん拍子で昇進、すぐに師範と思いきや、四回目の挑戦でようやく踊りの師範の免状をいただきました。

近頃は、デイサービスのボランティアや文化祭等で披露しております。遠く山口まで来て稽古をして下さる諸先生方、山口支部の諸先生方、諸先輩の方々に厚く御礼申し上げますとともに、恩に報いるためにも全種目師範に昇格する事と会員を一人でも多く増やし、安来節の発展に寄与する事だと思っております。

これから皆さんの教えを乞いながら安来節に邁進する所存であります。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

何が何でも安来節

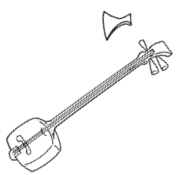
良くユーモア溢れる「安来節どじょうすくい踊り」を思い出し、早速安来市観光課に電話すると、東北で唯一仙台に安来節保存会に属し、教えている所があるとのこと。

私には今まで踊りなど無縁の世界でしたが、ポケ防止と健康維持のため、勇気を出してその門を叩いたのは桜咲く平成二十年四月のことでした。それから数えて、もう足掛け九年になります。

「芸の道に終りなし」を肝に銘じ、清野勝利師範指導のもと、練習を重ねるごとに不安も増し、最近では指一本の動きや表情そしてリズム等々に気を遣う今日この頃で奥の深さを実感しながら完成のない頂点を目指

して楽しんでおります。私は、この踊りをいろんな所で披露し、お客さんからの笑いと拍手に喜びと生き甲斐を感じつつ八十路の坂を歩いていきます。最後に安来節保存会の永遠の発展と会員皆様方の健康とご活躍を祈念いたします。

「芸の道に終りなし」を肝に銘じ、清野勝利師範指導のもと、練習を重ねるごとに不安も増し、最近では指一本の動きや表情そしてリズム等々に気を遣う今日この頃で奥の深さを実感しながら完成のない頂点を目指



支 部 情 報

東京支部

設立20周年を迎えて



楯 正 男 (東京支部)

平成 28 年 11 月 13 日 東京府中のけやきホールに於いて、東京支部設立 20 周年記念の発表会を実施し盛会裏に終えることができた。

関東を中心とした会員が参加したが、中には遠距離で北海道は札幌からの参加者もいた。

開演は、棚橋支部長の宮城県民謡の祝い唄「さんさ時雨」で始まり、安来節の唄・踊・銭太鼓と気迫のこ



もった発表が続いた。久々の舞台で緊張された向きはあつたが大いに盛り上がった。

そのほか、民謡、あるいはお馴染みの友情出演グループの新舞踊、剣舞等さらに股旅ものの歌謡舞踊と多彩で賑やかな演技で記念舞台に華を添えた。

安来節保存会



来賓として本部から家元四代目渡部お系先生、今岡淑子准名人と成相二郎専務理事をお迎えし、今日までの歩みをつぶさにご覧いただきました。先生方には唄をご披露いただきましたが、迫力ある唄を目前にした会員は感動し、その余韻は打ち上げの宴まで話題は続きました。また、専務理事からは、近藤宏樹保存会会長からの祝辞をご披露いただきました。

ここで私なりに 20 年の歩みを顧みると、やはり「技倆向上」についてです。発足 10 年前後の目標は「演技は自前で！」でした。あれから 20 年、今は「本場に近づけ！」と多少進化しているように感じます。しかし、その背景には本部の諸先生方、事務局のみなさんそして会員との交流に支えられてきたように思います。大会、審査会等では悔しさを覚えましたが人との交流で楽しみにかえるこ

とも出来ました。そんな観点から今回の表題を「安来節民謡発表交流会」としました。

さらに、大きな出合いは、発足当時からご指導いただいた原文男先生、出雲正之助先生さらに渡部孝夫先生方との出合いです、多方面にわたりご指導いただき、今日の支部の礎となつていように思います。改めて御礼申し上げます。

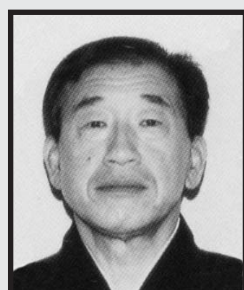
次は発表内容の紹介です、今回の目玉として新たな取り組みがありました。それは、「お江戸日本橋」の曲を「安来節のあんことした合唱・合奏と銭太鼓」です。原先生に課題を頂き、曲の変奏と銭太鼓の振り付けをまとめたことにあります。

この取り組みを通して新たな発見がありましたので、これを契機にさらに会員の技倆を磨き「楽しめる安来節の集まり」を目指したいと思えます。

指導部の諸先生方、保存会事務局今後ともご指導よろしくお願いいたします。



訃 報



昭和五十一年に安来節保存会に入会。平成二十一年から指導部員として安来節保存会に多大なご功績を残されました。絃准名人富田英好さん(六十七歳)が平成二十八年十一月二十二日急逝されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

●会報「安来節」に原稿をお寄せください。

安来節との出合いや思い、支部の活動や目標、保存会の今後などなど題は自由です。いずれも600字程度で顔写真(1年以内の物で使用後は返却します)も併せて送ってください。※応募多数の場合は次号へ繰り越す場合がございますので、予めご了承ください。

事務局からのお知らせ

安来節のしおり(平成28年度版)に誤りがございました。

訂正してお詫びいたします。

【訂 正】

- 尾高支部 P141
- ◆准名人 唄 中村實夫
- ↓
- ◆准名人 唄 中本實夫